うひはたぶみ（初機踏）

H.A.M.A.木綿庵だより
第８号
2017（平成29）年8月26日
（編集発行 梅田正之 090-5042-7775）

段取り八分　― 織り手の性格は仕上げの二分に ―

「段取り八分」という言葉がありますが、実際に機織りを体験してみると、あらためてその言葉の意味がよくわかるような気がしました。

京都府相楽郡精華町にある「けいはんな記念公園」の水景園観月楼地階に、『相楽木綿（さがなかもめん）伝承館』があります。相楽木綿とは明治初期から昭和10年代にかけて、京都府の相楽村（現在の木津川市相楽）を中心に生産されていた木綿織物の総称です。特徴は藍染の紺地に鮮やかな色糸（明治時代にいち早く化学染料を用いた紡績糸を採用）の縞と絣が織り込まれた美しさにあります。戦後、急速に衰退し姿を消していった相楽木綿の技術を復元し、伝承してゆこうとする取り組みが有志の方々によってはじめられ、「相楽木綿の会」となり、現在は『相楽木綿伝承館』を拠点に活動を展開されています。伝承館では、相楽木綿の織物や機道具等を常時見学することができますが、最大の魅力は、「絣」の手法とともに、「大和機（やまとばた）」を用いての機織り技術を学ぶことができるところにあります。「大和機」とは近世以降、大和地方を中心に盛んに使用されていた機織りでありながら、使用については熟練した技術が必要なため、その後はより簡便な高機（たかはた）にとってかわられ、機織り技術そのものが一度は途絶えてしまったものです。

その大和機の機織具と技術の復元に中心となって取り組まれたのが元帝塚山大学教授の植村和代氏であり、その技術の伝承に取り組まれているのが相楽木綿の会のみなさんです。相楽木綿伝承館では、相楽木綿の伝統を受け継ぐべく、希望者を対象に「機織り教室」を開催されており、私自身は今春４月より第８期生として入学。先日８月６日に「初級コース」を修了しました。

「初級コース」は全10回。植村和代氏による「織物のしくみと工程」という①講義からはじまり、②「糸巻き」、③「整経」、④「巻き取り」、⑤「もじり通し」、⑥「筬通し」、⑦「織り付け」、⑧⑨「織り上げ」、⑩「仕上げ」と進みます。第２回の糸巻きから、実際の作業に入っていきますが、用いる機は「チョンコ機」です。「大和機」ではありません。大和機にたどりつくためには、中級を経て、上級コースを修了する必要があります。上級コース修了者となって、はじめて大和機の技術を学ぶ資格が与えられるというわけです。つまり、それだけ大和機の使用には、製織技術に関してそれなりの理解と熟練が必要である、ということでもあります。

さて今回、初級コースを了えてようやく「機織り」の全体像をイメージすることができるようになりました。そして、痛感したのが「段取り八分」という言葉です。これまで漠然と抱いていた機織りのイメージは、緯糸（よこいと）を左右に通してトントンと打ち込む姿でしたが、全体像がわかってみると、あの作業は仕上げの二分にすぎない、ということが身に染みてよくわかりました。大切なのは経糸（たていと）を整え（「整経」）、綜絖（そうこう・もじり）と筬（おさ）に糸を通して、機に経糸を架ける作業です。そして、仕上げの二分にこそ、織り手の性格、性分が如実に反映されるということも、大変よくわかりました。

チョンコ機を用いて梅田が織った初めての作品 →

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】（問い合わせ件数 平成29年7月26日～平成29年8月25日）
群馬県１、東京都１、神奈川県１、奈良県１
【H.A.M.A.木綿庵】（平成29年7月26日～平成29年8月25日）
メールを含む各種相談件数３、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数３件３名

《綿の栽培記録 2017》－ 平成29年度版　その４－

８月　７日（月）　台風５号の影響で、洋綿の枝が多数裂けて、倒れる。
８月１０日（木）　ハマキムシ被害が拡大したため、今年初めて薬剤※を散布。
８月１２日（土）　台風で倒れた枝を切り取り、コットンブランチに仕立てる。
８月１５日（火）　和綿の開絮（コットンボールがはじける）を初めて確認。写真下左端
８月２０日（日）　洋綿の開絮（同上）を初めて確認。写真下右端
８月２３日（水）～２５日（金）　生長した枝が倒れるのを防ぐため、倒枝防止柵を設置。

上段の写真中央は台風一過後の和綿の様子。背丈はおおむね130㎝。左は和綿の蒴果。右は洋綿の蒴果。

下段の写真中央は倒枝防止柵設置後の１号畑の綿畝の全景。写真左は和綿、右は洋綿のコットンボール。
※使用した薬剤はアディオン乳剤（ペルメトリン乳剤。住友化学株式会社）と、エルサン乳剤（PAP乳剤。日産化学工業株式会社）混合の1,500倍希釈液です。

【綿の加工の作業記録】　（梅田１人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量　（洋綿）
　7月26日～8月25日（作業実日数16日）　糸の総量73.2ｇ（19.52匁）　総時間268分（4時間28分）
　※1分間≒0.273ｇ　1時間≒16.4g（4.4匁）

【研修等の記録】

・平成29年8月06日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級⑩織り上げ」（京都府相楽郡精華町）受講
・平成29年8月17日「阿波藍資料館：（社団法人）三木文庫」（徳島県板野郡松茂町）を訪問、見学
・平成29年8月25日　奈良県主催「子ども・若者を支える人づくり講座」（奈良商工会議所）受講

【以下の写真は、徳島県板野郡にある阿波藍資料館：三木文庫。左が展示室兼収蔵庫。中央が三木家の本宅。右が荷出しをするために川沿いに設けられた裏側の玄関】